

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立豊里小学校 学校協議会

1. 総括についての評価

今年度の学校の自己評価は概ね妥当である。今年度の目標はほぼ達成できている。

「子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」については、大阪府教育委員会より「こころの再生」府民運動で、あいさつ運動や「がんばりボックス」で表彰を受けるなど、学校のとりくみは非常に評価できるので、A評価に変更してもいいと思う。教職員の励みにしてほしい。

2. 年度目標ごとの評価

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上とする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○平成 29 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を 0 にする。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○平成 29 年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、前年度より減少させる。（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校園の年度目標

○平成 29 年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 70%以上とする。（施策 2 道徳心・社会性の育成）

○平成 29 年度末の校内調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 70%以上とする。（施策 2 道徳心・社会性の育成）

○平成 29 年度末の児童アンケートにおける「『豊里っ子宣言』を守っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。（施策 2 道徳心・社会性の育成）

○平成 29 年度末の児童アンケートにおける「しっかりと清掃活動をしている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。（施策 2 道徳心・社会性の育成）

○平成 29 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える保護者の割合を 75%以上にする（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

B
↓
A

校内調査・児童アンケート等結果（カッコ内は年度目標）

全市共通目標（小・中学校）

○ いじめ解消…いじめアンケートにより把握した 120 件全てについて対応を行った。

○ 「学校のきまり・規則を守っていますか」…90%の肯定的回答（75%以上）

○ 暴力行為…暴力行為を複数回行う加害児童数は 0 であった。

○ 不登校の児童の割合…不登校の児童の割合は前年度より減少している。

学校園の年度目標

○ 「自分には良いところがあると思いますか」…78%の肯定的回答（70%以上）

○ 「将来の夢や希望を持っていますか」…86%の肯定的回答（70%以上）

○ 「『豊里っ子宣言』を守っている」…88%の肯定的回答（75%以上）

○ 「しっかりと清掃活動をしている」…91%の肯定的回答（75%以上）

○ 「学校は情報公開をよく行っている」…95%の肯定的回答（75%以上）

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

達成
状況

取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

○ 『豊里っ子宣言』を中心に据え、児童にとって安全・安心な学校づくりのための取組を行う。

指標	○ 『豊里っ子宣言』の3つの目標を達成するために、学期毎に1つずつ目標達成のための重点期間を設け、取組みを行う。 ○ 遅刻・不登校を減少させるため、児童や家庭に働きかけるための連絡・支援・指導の方法を新たに策定し、全職員の共通理解のもとで働きかけが継続的に行われるようにする。	B ↓ A
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】	○ 自他のちがいを認め、互いを大切にする気持ちや自己有用感を育むための児童中心の取組みが多く行われるよう、計画・支援・実行していく。	B
指標	○ 学期1回以上のたてわり班での異学年交流を行う。 ○ 『豊里っ子宣言』が目指す学校づくりを行うための児童会活動・学級活動等の取組みに、全児童が1回以上主体的に参加する。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】	○ 月ごとに美化目標を設定し、学級ごとに重点的に指導・実践していく。	B
指標	美化委員会を中心に毎月美化目標を設定し、各学級に集会やポスターなどで呼びかける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">重点期間に目標達成のための取り組みは予定通り行うことができた。また、職員各自で連携し、遅刻・不登校を減少させるための働きかけを継続することができ、改善が見られた。集会等も含め、たて割り班での異学年交流を行うことができた。また、委員会活動や学級で児童が主体となった取り組みも行うことができた。校内美化への取り組みは、委員会を中心に行うことができた。また、美化目標についても、集会等で全児童に伝えることで清掃活動への意識が高まった。		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none">遅刻・不登校減少に向けて学校全体として取り組めるよう、児童や家庭に働きかためるための連絡や方法を、全職員で共通理解できるような指針を策定していく必要がある。児童が主体となる取り組みについては、こういった取り組みが望ましいかを職員が考えていく必要がある。月ごとの美化目標のポスターを学級担任に渡すなど、学級単位での取り組みが定着するように連携を強化する必要がある。掃除場所のチェックについても、より効果的に行われるよう改善する必要がある。		

<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p><u>全市共通目標（小・中学校）</u></p> <p>○平成２９年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２８年度より向上させる。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成２９年度の小学校学力経年調査における正答率３割以下の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２８年度より向上させる。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成２９年度の小学校学力経年調査における正答率７割以上の児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２８年度より向上させる。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成２９年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２８年度より向上させる。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>○平成２９年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点の記録を、前年度より向上させる。 (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○平成２９年度末の児童アンケートにおける「英語の勉強は楽しい」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を７５％以上にする。 (施策６ 国際社会において生き抜く力の育成)</p> <p>○平成２９年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の児童アンケートにおける「普段の体育の授業の目標設定とふり返し」の２項目について、大阪市平均を上回る。 (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</p> <p>○平成２９年度末の児童アンケートにおける「給食・手洗い」の２項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を７５％以上にする。 (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</p>	A
<p>校内調査・児童アンケート等結果（カッコ内は年度目標）</p> <p><u>全市共通目標（小・中学校）</u></p> <p>・小学校学力経年調査</p> <p>○標準化得点…４年生は全教科、５年生は算数・社会・理科、６年生は理科の標準化得点が平成２８年度より向上している。</p> <p>○正答率３割以下の児童…４年生、６年生で向上がみられた。</p> <p>○正答率７割以上の児童…４年生、６年生で向上がみられた。</p> <p>○学習での「話し合う活動」…平成２８年度より約３ポイントの向上がみられた。</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣調査</p> <p>○データ未着</p> <p><u>学校園の年度目標</u></p> <p>○「英語の勉強は楽しい」…９０％の肯定的回答（７５％以上）</p> <p>○「普段の体育の授業の目標設定とふり返し」…データ未着</p> <p>○「給食・手洗い」…９１％の肯定的回答（７５％以上）</p>	
<p>取組内容①【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 習熟度別少人数学習の有効活用や「さんさんタイム」実施・ＩＣＴの活用などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着にむけた取組を行う。</p> <p>指標○ ＩＣＴ機器を活用する場面を週１回以上設定する。</p> <p>○ 各学年、各学級の実態に応じた「さんさんタイム」を週１回以上継続して行う。</p>	A
<p>取組内容②【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 言語活動を充実させ、意見交流を活性化させるための指導方法や指導材の工夫を行う。</p> <p>指標 各学年、年間１回以上の公開授業、討議会を通して授業内容の改善を図り、成果は紀要にまとめる。</p>	A

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 図書館の集団貸出を利用したり、学校図書館・学級文庫を整備したりし、授業に活用する。	B
指標 図書館の集団貸出を利用したり、学校図書館・学級文庫を授業で活用したりする機会を年間2回以上設ける。	
取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ○ さまざまな部会を通して研究を深め、分かりやすい授業の創造を目指す。	A
指標○ 公開授業・討議会・実技研修会等を計画的に行う。 ○ 週1回以上ICT機器を活用した英語モジュールタイムを計画・実施していく。	
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ なわとびギネス・耐寒かけ足に加え、運動強化月間を設定し体力の向上を目指す。	B
指標 年3回の運動強化月間を中心に、なわとびギネス、耐寒かけ足も計画的に取り組む。	
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 児童それぞれが自分の課題をもって体育の授業に取り組めるようにする。	B
指標 毎時間の体育の授業で目標設定とふり返りの時間を確保する。	
取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○給食週間や栄養指導等を通じて食への関心を高める。 ○手洗い重点週間を設けるなど手洗い指導を実践し、健康への関心を高める。	B
指標○ 各クラスの年1回以上の栄養指導や、給食委員会で給食を残さず食べることをよびかける取り組みをするなど、活動を工夫する。 ○ 健康委員会による毎週の健康チェックや、年3回の重点週間を実施し、手洗いを意識づける。	

3. 今後の学校運営についての意見

引き続き、子どもの健全育成に向けて取り組んでほしい。学年によって学力・体力等に関きがみられるとのことで、次年度以降の結果を注視していきたい。